

## 特集 職業能力開発総合大学校（PTU：Polytechnic University）の地域連携

小平市小川西町2丁目、中宿地域センターのある都営団地の向いに、職業能力開発総合大学校はある。42,000㎡の敷地のなかに建つくつかの白亜の建物。この地域一帯が集合住宅や公園に囲まれ、商業施設もあまりないため、静かな場所である。「大学校ってなんだろう」「なにを専門にしている学校なのだろうか」と思う市民も多いのではないかと。しかし、最近の同校の地域連携は目覚ましいものがある。ここ数年、どのように地域とかがわりつつあるのか。広報・地域連携センター長 遠藤龍司氏（教授、構造力学・計算力学）にお話を伺った。

### ◆職業能力開発総合大学校とは

職業能力開発総合大学校ときくと、大学とは違うのかと思うが、文部科学省所管の高等教育機関が「大学」であり、そのほかの省庁のそれは「大学校」と呼ぶとのこと。PTUは厚生労働省所管の高等教育機関である。同校は、1961年、小平市で創立。1973年、相模原市に移転。2013年、小平に戻った。

設置の目的は、職業訓練指導員（国家資格）の育成。卒業生の約半分は民間企業（東証一部上場企業等の技術者・研究者が多い）へ、約半分は国・都道府県等公共機関の職業訓練指導員として就職する。また、学士・修士を取得することができる機関でもある。

### ◆「PTUを知ってほしい」 圓川隆夫校長の思い

高度な専門教育機関であるが、主たる目的が「職業訓練指導員育成」とかなり専門的であるため、世間的には今一つ知られていない。まずは、大学の存在について知ってほしいという、圓川校長（大学校であるため、学長ではなく校長と呼ぶ）の強い思いがあったと聞く。さて、どうしたらよいのか。広く知ってもらうための専門の部署をつくらう、ということで「広報・地域連携センター」が2018年4月に作られた。

### ◆広報・地域連携の動き

センターの設置は今年に入ってからだが、それ以前からも地域連携の活動は行われてきている。

#### その1 PTUフォーラム

2014年から始まったPTUフォーラムは、ものづくりを中心に様々なテーマで、毎年、講演会・シンポジウムなどを行ってきた。たとえば、2014年「クラブ作りへの思い〜イチロー選手とのエピソードを交えて」（ミズノ グラブマイスター岸本耕作氏）、2015年「サントリーの“やってみなはれ”と『ザ・プレミアム・モルツ』の躍進」（サントリービール武蔵野工場長 岡賀根雄氏）、2018年「鎌倉彫からみる日本のモノづくり」（鎌倉彫作家 三橋鎌幽氏）、などなど。タイトルを聞いただけで、「面白そう！」という声があがりそう。これらはすべて遠藤センター長の企画というからおどろく。「市民のみなさんにぜひ聞いていただきたい」と語る遠藤氏の笑顔が印象的だった。

#### その2 なかまちテラスとの協働

ここ数年、なかまちテラスの壁面に、年末から年明けにかけてイルミネーションが輝くのを楽しみにしている方も多いのではないだろうか。漢字ひと文字で

のイルミネーションを作るのは、同大の学生と教員。同じ文字が同大校庭にも輝く。例年2か所とも、同じ文字を点灯してきたが、今年は平成最後とあって、なかまちテラスは「平」、PTU校庭は「成」の文字となった。地域の市民がLED電球の取り付けに参加するなど、PTUと地域との協働の場、交流の機会となっている。

#### その3 学生たちが地域へ

PTUの各課程は、一般の大学などと比べると授業時間が約2倍と非常に多い。そのため、学生たちに、余暇時間は少ないが、それでも専門性を活かして「なかまちテラスまつり」や「元氣村まつり」に参加し、得意の分野で子どもたちの関心をさらっている。今年、同校ロボット部が夏休みの小学生向け企画として「ライトレースロボット製作教室」を開き、好評だった。また、ブルーベリーリーグ（小平市大学連携協議会）にも参加し、学生主催イベント「まちで楽しむ6」では同部が活動発表を行っている。

□ □ □

遠藤センター長は、「学生が市民や子どもたちと接して、教えたりコミュニケーションをとることは、将来の仕事に就くうえでも大変役に立つ」と話す。今後は、単位として認定していくことも検討しているとのことだ。学生たちの学外での連携・社会貢献がいつそうすすむのではないかと期待する。

### ◆今後への期待

PTUの広報・地域連携がこれからも一層発展していくかどうか、「小平にPTUあり！」となるかどうかは、同センターばかりではなく、学生・大学一丸となつての活動にかかっている。本来の勉学・研究に忙しいうえにさらに忙しくなるわけで、大変なことは思うが、小平市民としても、今後注目したい。

（文責 伊藤）

